

子育て

再チャレンジ

「ふるさとまるごと博物館プロジェクト」
～伝えたいこの子らに～われら「道ばた学芸員」

邑南町公民館連絡協議会

1 邑南町公民館連絡協議会の概要

邑南町は、平成16年10月1日石見町・瑞穂町・羽須美村の3町村の合併により誕生した島根県のほぼ中央南部に位置する広島県境の町である。

現在12の公民館では、それぞれの地域課題の解決に向けた活動が展開されている。

合併後、共通認識のもとに一体感のある公民館活動を推進できるよう、公民館連絡協議会で事業を展開している。また、毎月主事会を開催し意見交換や情報交換を図り、協力しながら足並みのそろった活動が展開できるよう努力している。

2 事業の概要

(1) はじめに

- ①実証事業名 「ふるさとまるごと博物館プロジェクト」
- ②実証事業のテーマ ～伝えたいこの子らに～われら「道ばた学芸員」
- ③実証事業のねらい

これまで実施してきた「発見！ふるさとお宝プロジェクト」で収集した情報を人づくり、地域づくりに活用し、地域間交流を図る。いきいきとした、元気な町づくりに取り組む。（住みたくなる・住んで良かった・住み続けたい町）

各地域間で、磨きをかけたお宝を紹介するための「学び直し」や「もてなし」の活動をとおり、地域のお宝への誇りを一層深め、町内外の交流人口の増加を目指す。

水源の里・源流に生きる誇りと責任を持つことにより、自然を愛する心を育て、里山の風景を後世につなげる。

(2) 具体的な取組

①リーダー研修（矢上公民館）

ア 公共交通機関の利用方法及びルール・マナーを学ぶ。

- ・子ども自身で乗車料を管理し、支払いを行う。
- ・三江線乗車までにルール等についてのクイズを行い、内容について子どもたち自身がルール等についての共通意識を持つ。
- ・あらかじめグループ分けをおこない、高学年をリーダーとしてグループをリーダーがまとめる。

（集合時間の徹底など）

イ 公共施設の利用方法及びルール、マナーを学ぶ。

- ・ゴールデンユートピアおおちを使用し公共施設の使用方法を理解した。

ウ 矢上小学校と石見東小学校児童の交流を行う。

- ・学校区に所在する矢上公民館及び井原公民館、中



三江線に乗ろう

野公民館が共同で活動支援者となり事業を行った。

②「市木カルタ大会」の開催（市木公民館）

公民館を利用するグループや教室単位で「市木カルタ」大会を行う。

各大会の王者が決定し、「市木公民館まつり」においてグランドチャンピオン大会が開催された。白熱の戦いの結果、参加者の中の高齢者が優勝し地元の小学生が準優勝であった。なんとその差は1枚。



世代間交流！高齢者と子供達の熱き戦い

③「道ばた学芸員」の育成（市木公民館）

「道ばた学芸員養成塾」を開設し「ひと」「もの」「こと」に関する情報収集とその整理をし、またそれを共有し、伝承して行く事を目的とし、カルタを制作した人を中心として16名の方が養成塾を実施した。再度市木地区の歴史についての学びなおしやおもてなしの心を学んだ。



市木カルタ

④「市木カルタ絵札めぐり（市木公民館）

「市木カルタ絵札巡り」と題し市木カルタ散策街道として健康と歴史の学びを絡め周遊コースを選定し市木のお宝を体感した。

市木カルタ散策街道づくりには、島根県産材を使った絵札の看板づくりを公民館の木工教室を中心に地域全体で制作に取り組んだ。



ウォークラリー…クイズの答えは
ふるさと学芸員の語り！

⑤ふるさとウォークラリーの開催（阿須那公民館）

阿須那小学校児童・羽須美中学校生徒と地域住民が一緒になって阿須那地区内のふるさとお宝をめぐり、歴史や文化、産業、自然に関する「ひと」「もの」「こと」にふれ合うことを通して、ふるさとへの理解と愛着を深めることが出来た。

また、集落営農組織の「田吾作」にあるトラクターを見学した児童の中で「将来は田吾作で働きたい」と感想を述べるなど、将来ここで働くきっかけ作りをもつことが出来た。



今西 比丘尼城



西蓮寺



田吾作 のオペレーターに 僕もなる

⑥いも代官の石碑めぐり（日貫公民館）

ア 地元小学校と連携し、総合学習の授業時間で企画。
地元小学校の3、4年生が参加。

イ あらかじめ見てまわる石碑とそのいわれ、伝承に
詳しい近隣（主に地区内）の方に依頼し、案内役を
お願いした。

ウ 地区内を車及び徒歩で移動。実物の石碑のところ
に行き、現場で案内役の方が説明。



いも代官の石碑めぐり

⑦味噌作り体験（中野公民館）

地元の垣崎醤油店の協力により、石見東小学校・井原公民館と連携して、5年生の生徒を対象に体験学習の時間で実施した。

まず学校の教室で、味噌のことについて作り方、栄養、仕組みを学んだ。その後、工場に行き、1日目は米麴を作る作業、1週間後2回目は蒸した大豆をすりつぶして米麴と塩を混ぜ、味噌を作る作業（仕込み）を行った。完成は23年の秋になるが、その際には味噌を使った料理をみんなで作り、味わうことを計画している。



米麴作り

買った味噌を使っている家庭が殆どで、子どもたちははじめての体験に戸惑いながらも楽しんで味噌作りを行っていた。そして、大豆、米など地元産の材料で作られているということも、地域に愛着を持つきっかけになったのではないか思う。



味噌の仕込み

⑧高原・布施地域めぐり（高原・布施公民館）

小学校と連携し、授業時間を活用した布施・高原地域めぐりを実施。

地域のお宝や伝承について、事前に小学校で選定した学習コースに沿って地域めぐりを行い、それぞれの地点で一緒に参加した地域住民が案内を行った。



高海の化石体験



鉄穴流しと製鉄のお話

⑨石灰工場と3億年前の化石（口羽公民館）

羽須美地域も大昔は海の底であったことが、上ヶ畑の石灰工場跡の石灰岩から発見された化石によって証明されている。石灰が精製される工程や当時の工場の隆盛について

地元の実際に携わっていた方からお話を聞き、続いて発見された化石や地層について三瓶自然館～学芸員を招き学習した。

石灰工場と化石について座学



現地 石灰石を焼く釜戸あと

現地 鍾乳洞

3 事業の成果と課題

- (1) 子どもから高齢者までが世代間交流として一堂に会して地域の歴史を学ぶという生涯学習の大きなきっかけ作りとなった。
- (2) 秋に開催された「市木カルタ絵札めぐり」で道ばた学芸員の3名が参加者の前で市木地区の歴史の語り部として活躍した。自信に溢れた語りは参加者の心を魅了しさらにこの地区の歴史を学びたいと思わせた。
- (3) 市木地区だけではなく邑南町内や県外でも市木カルタを使ったカルタ大会が行われた。また、カルタを始めたところも出てきた。
- (4) 「おおなんお宝マップ」については、各主事段階での取りまとめまで進んだが、その後の協議会での検討や各公民館活動推進協議会での確認修正作業にまで進まなかった。

4 今後の方向性

地区内のさまざまな歴史に触れる機会を設け、ふるさとに親しむ心をはぐくむ。

市木カルタは町内でも着実に広まり最近では市木と交流のある広島市立伴南小学校でも市木カルタを使って大会が行われている。このカルタを通じて自分達の生まれ育った故郷に愛着と誇りを持てる子ども達に育ててほしいと思う。そのためにも道ばた学芸員の養成についても平行しながら進めて生きたい。

社会教育を通じて邑南町は「住みたくなる・住んでよかった・住み続けたいふるさと」になっていけばと願う。